

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
がん看護学特論Ⅱ(がん看護理論)	1	前期	2	講義 30時間
担当教員	岡本明美、千葉恵子			
授業概要	がん患者とその家族に対する看護介入に適用される主要な概念・理論についての理解を深め、実践への活用について探究する。			
到達目標	1. がん患者とその家族を理解するための概念・理論について説明できる。 2. がん患者とその家族を理解するための概念・理論、最新の看護研究結果を用いて、看護実践について検討できる。			
履修条件	特になし			
授業計画	回	内容	担当教員	
	1	ストレス・コーピング理論の理解と活用	岡本	
	2	ストレス・コーピング理論の理解と活用	岡本	
	3	危機理論の理解と活用ーフィングの危機理論	岡本	
	4	危機理論の理解と活用ーフィングの危機理論	岡本	
	5	危機理論の理解と活用ーアギュレラとメジックの危機の問題解決モデル	岡本	
	6	危機理論の理解と活用ーアギュレラとメジックの危機の問題解決モデル	岡本	
	7	セルフケア理論の理解と活用	千葉	
	8	セルフケア理論の理解と活用	千葉	
	9	自己概念の理解と活用	千葉	
	10	自己概念の理解と活用	千葉	
	11	悲嘆・喪失の概念の理解と活用	千葉	
	12	悲嘆・喪失の概念の理解と活用	千葉	
	13	自己効力感の理解と活用	岡本	
	14	自己効力感の理解と活用	岡本	
15	がん患者とその家族の個別の問題解決を図るための概念・理論の実践への適用する上での課題	岡本		
教科書	なし			
参考書	野川道子：看護実践に活かす中範囲理論、第2版、メヂカルフレンド社、2016。 小島操子：看護における危機理論・危機介入 フィング／コーン／アギレラ／ムース／家族の危機モデルから学ぶ、第4版、金芳堂、2018。			
評価方法・基準	授業への参加状況(20%)、作成資料(40%)、プレゼンテーション(40%)を総合して評価する。			
事前・事後学習	事前学習：授業概要を参考に、それぞれの課題に対して文献および研究論文による学習を行い、資料を作成し、発表・討議に臨む。 事後学習：学習内容のがん看護実践への適用について検討する。			
備考	特になし			